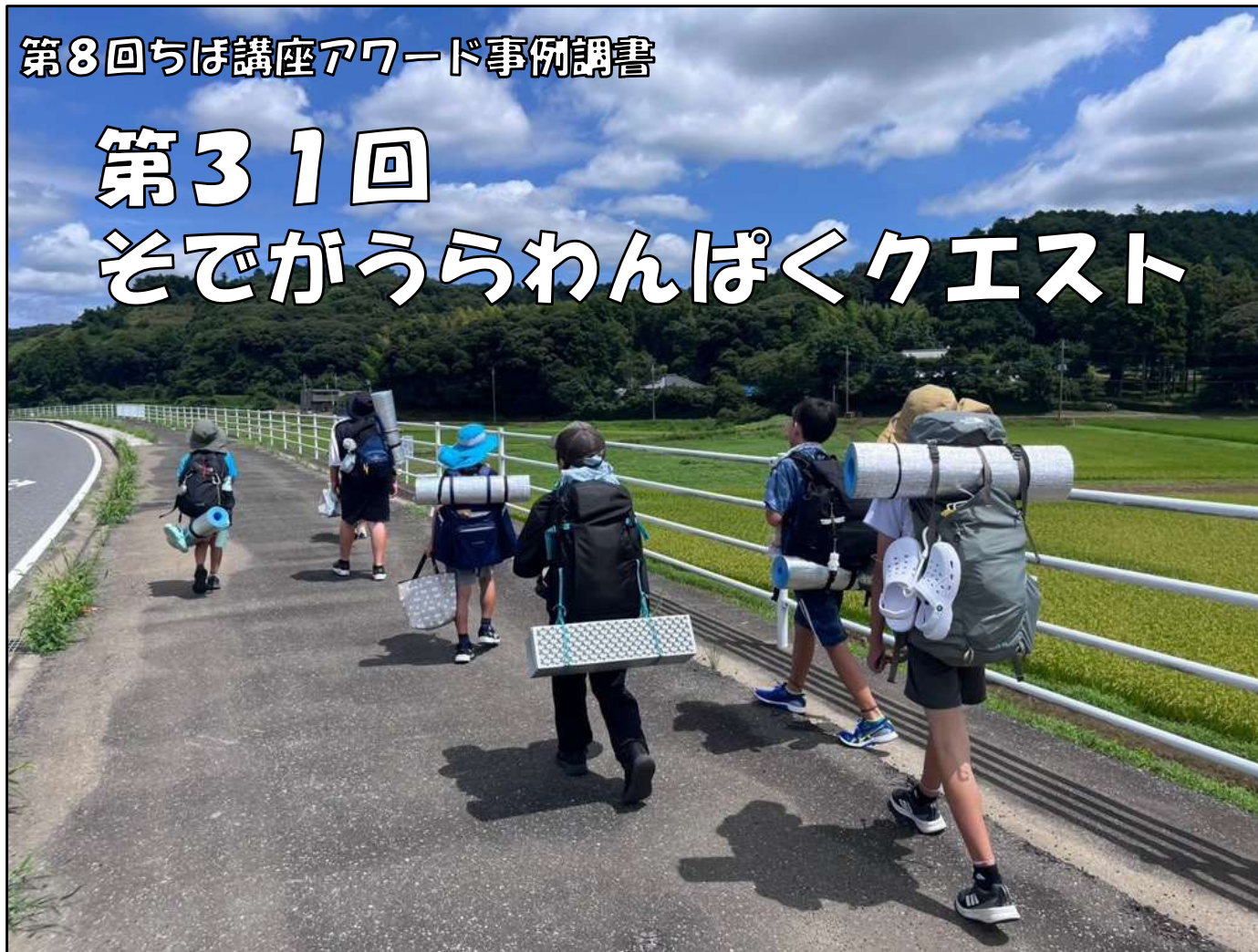


第8回ちほ講座アワード事例調書

第31回

そでがうらわんぱくクエスト



そでがうらわんぱくクエスト事業について事例報告をさせていただきます。



事業概要

まず、事業概要についてです。

【そでがうらわんぱくクエスト事業とは】



- ・**野外泊、自炊、徒歩移動**を原則とし、
地域交流を行いながら、目的地を目指す。
- ・参加者は**小学5年生から中学3年生**の児童生徒。
男女別で班を編制する。
- ・荷物運搬、食材調達、歩くルート、献立、体験活動の計画、
宿泊交渉など、参加者が**全て自分たち**で話し合って決定。
- ・参加者の安全管理のため、大人の随行者である
「カウンセラー」がそばにつく。

そでがうらわんぱくクエストとは、
野外泊・自炊・徒歩移動を原則として、地域交流をしながら目的地を目指すという「非日常」をコンセプトとした旅です。
参加者は小学5年生から中学3年生までの児童生徒で、期間中はすべて自分たちで話し合い、活動を決めていきます。
ただし、参加者の安全管理のために大人の随行者であるカウンセラーが24時間活動をともにします。
今年度で第31回目を迎えた袖ヶ浦市でも歴史ある事業です。

【事業の目的】

自分たちで行程を考えながら、学校・学年を超えた仲間と共同生活を送ることを通じて、地域の素晴らしさや温かさ、日常のありがたさを感じるとともに、**課題に対応し、解決する力・コミュニケーション力・柔軟に考え行動する力**を身につける。



本事業の目的について、もう少し細かくお伝えします。

「自分たちで行程を考えながら、学校・学年を超えた仲間と共同生活を送ることを通じて、地域の素晴らしさや温かさ、日常のありがたさを感じるとともに、課題に対応し、解決する力・コミュニケーション力・柔軟に考え行動する力を身につける。」としております。

現代の子どもたちを取り巻く環境は日々目まぐるしく変化しています。先行きが不透明で、将来の予測が困難なVUCA(ブーカ)の時代であるとも言われます。こうした状況下で、子どもたちはこの赤字の部分の部分を身につけることが求められています。

本事業を通して、参加する子どもたちがこれらを身につけていくことを目指していきます。

【わんぱくクエスト実施の経緯】

青少年健全育成を目的とした県実施事業「フロンティア・アドベンチャー」を各市町村に委託して実施できないか依頼あり。

平成7（1995）年…君津市が実施

平成8（1996）年…袖ヶ浦市が実施
「フロンティア・アドベンチャー事業 そでがうらわんぱくクエスト」
※実質「第1回そでがうらわんぱくクエスト」

平成9（1997）年…県補助金打ち切り
袖ヶ浦市単体での事業継続
※実質「第2回そでがうらわんぱくクエスト」

以降、現在まで継続実施されている。

わんぱくクエスト実施の経緯です。

はじめは青少年健全育成を目的として県で実施していた「フロンティア・アドベンチャー」という事業を各市町村に委託して実施できないか、県から依頼があり、君津地方でもその動きがありました。

袖ヶ浦に先立って平成7年に君津市が実施し、

その翌年、袖ヶ浦市が「フロンティア・アドベンチャー事業 そでがうらわんぱくクエスト」として実施しました。

その後、袖ヶ浦市単体での事業継続の選択肢を選び、以降、現在まで継続実施されている、という流れです。

【事業の沿革】

○黎明期

～平成9年

袖ヶ浦市内のみで活動 4泊5日

平成10年～平成18年

君津・木更津・袖ヶ浦3市 5泊6日

これまで30年以上続いてきたわんぱくクエストですが、事業の形は少しずつ変わりながら、続いてきました。
はじめは袖ヶ浦市内のみでの活動でしたが、回を重ねるにつれて、活動範囲を拡大してきました。
平成10年から18年までは君津3市、5泊6日で活動をしていました。

【事業の沿革】

○発展期

平成19年～平成21年

鴨川－袖ヶ浦間 房総横断 5泊6日

平成22年～令和元年

君津地方4市 5泊6日

年によっては鴨川の海岸線から袖ヶ浦海浜公園までを踏破(とうは)する「房総横断の旅」と称して実施された回もあります。
その後は、君津四市の活動に落ち着いて令和元年度まで回を重ねてきました。

【事業の沿革】

○コロナ禍～新たな形へ

令和2、3年

感染症拡大防止のため中止

令和4、5年

袖ヶ浦市内、公共施設利用による活動 2泊3日

令和6年

君津・木更津・袖ヶ浦3市、民泊再開 2泊3日

令和7、8年

袖ヶ浦市内での活動 2泊3日

令和2年から2年間は新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止を余儀なくされましたが、感染症対策をしながら、可能な範囲で活動を再開することとなり、令和4年度からは2泊3日の日程で行っています。感染症対策が緩和された令和6年度には、5年ぶりに市外への活動を再開しましたが、昨年度実施した第30回からは、再び市内のみの活動として実施しています。

【令和7年度からの主な変更点】

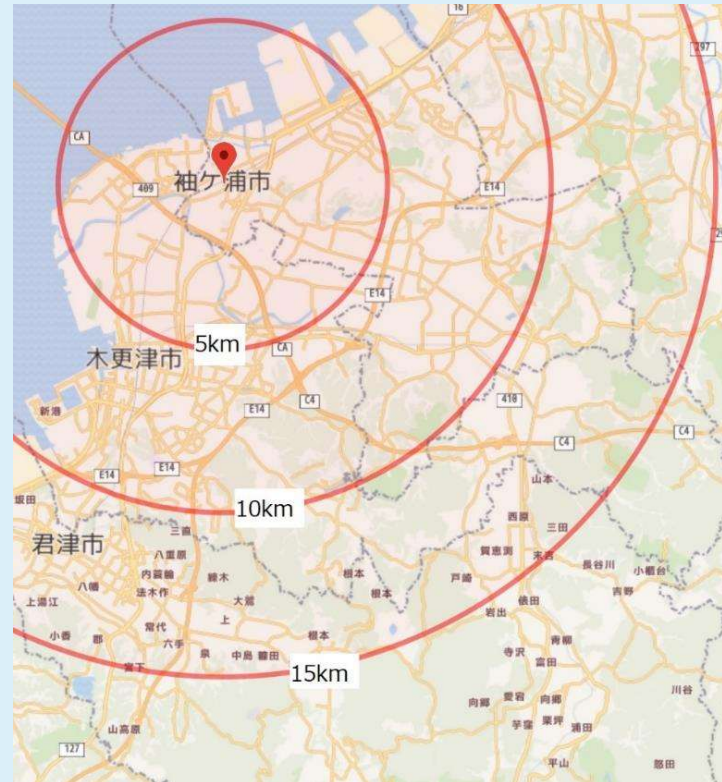
令和6年度

活動範囲…**君津市**
木更津市
袖ヶ浦市
の3市



令和7、8年度

活動範囲…**袖ヶ浦市内**



ここ数年の開催について、もう少し詳しくお伝えいたします。

令和6年度実施の第29回目は感染症対策の指針が緩和されたことを受け、

より参加者の活動の自由度、充実度を高められるよう、活動範囲を君津市・木更津市・袖ヶ浦市の3市とするとともに、民家に交渉して泊まらせていただく「民泊」を再開しました。

しかし、令和7年度の第30回からは、検討を重ねた結果、「故郷である袖ヶ浦市の魅力を再発見するというコンセプト」のもと、

昨今の暑さにも対応した事業展開を目指すため、活動範囲を袖ヶ浦市内としました。

袖ヶ浦市は市役所本部を中心として、およそ10km～15kmの範囲に収まる大きさの市ですので、ゴールまでの移動距離が短くなることが想定され、日中の長距離移動をおさえることをねらいました。

また、活動範囲が市役所本部や事務局のいる各社会教育施設から近いということも、緊急時の対応が迅速に行えるという点で、暑さ対策の1つとなるのでは、と考えました。



事業の実際

続いて、事業の詳しい中身や特徴について、もう少し詳しくお伝えさせていただきます。

【非日常体験】

- ◎ 全行程徒歩移動
- ◎ 自力生活
- ◎ 各種体験活動
- ◎ 野外泊



わんぱくクエストの最大の特徴は「非日常体験」です。

日常とはかけ離れた体験をさせることで、子ども達の中の力を引き出し、心を育てることがねらいです。

わんぱくクエストの非日常体験をもう少し詳しく紹介します。

◎全距離徒歩移動 スタート地点からゴールまですべて徒歩で移動します。

◎自力生活 買い物、炊事、洗濯など、全て自分たちで行います。

◎各種体験活動 野菜の収穫や動物の世話など、交渉によって様々な体験活動を行います。

◎野外泊 基本的に野外に宿泊します。

【全行程徒歩移動】

何があっても、
袖ヶ浦を目指して
ひたすら歩く…



非日常体験を1つずつ具体的に説明します。

まずは全行程徒歩移動です。

袖ヶ浦市役所で出発式を終えた後、バスに乗ってスタート地点へ移動します。

バスを降りたら、天候不良等の例外を除いて、その後は一切乗り物には乗りません。

雨が降っても、疲れても、自分の足のみでゴールを目指します。

参加者を見守るカウンセラーには、事前に涼しい時間にできる限り移動し、

暑い時間帯は体験活動を中心に行い、極力移動しないように伝えてあります。

しかし、「どうしても今日中にあそこまで行きたい」という日がでできますので、

その場合は、適宜(てきぎ)休憩を取ったり、こまめに水分を補給したりするようお願いしています。

【活動範囲について】

袖ヶ浦市全域



活動範囲は、先ほどもお伝えした通り、袖ヶ浦市全域です。
3日目の15時から16時の間に袖ヶ浦市役所に戻る徒歩圏内となります。

わんぱくクエスト中の3日間は全てが好天とは限りません。
雨の日もあるかもしれませんし、酷暑に見まわれるかもしれません。
学校の校外学習では「雨のため延期・行先変更」という措置をとることが多いですが、
わんぱくクエストでは、命の危険に関わるような天候の悪化以外はそのまま続行します。
命の危険に関わる悪天候とは、台風や雷雨、暑さ指数が31℃以上になる場合等のことです。
過去には、台風の接近で急きょ全員を集めたこともありました。

【各種体験活動】

- ・飼育
- ・野菜&果物収穫等
- ・施設見学

全て自分たちで交渉



参加者たちには、「寄り道」を推奨しています。

ただ歩いてゴールを目指すだけでなく、道すがらで様々な方と交流し、地域の良さを感じてほしいと考えています。

過去、野菜や果物の収穫、牛舎でのえさやりなどのお手伝いをさせていただいたこともあります。

消防署や浄水場、製茶工場といった場所にも参加者が立ち寄っており、

学校の校外学習のようにいろいろ見学させてもらったようです。

小学校高学年、中学生になってくると、知らない人に話しかけることに抵抗が出てきますが、

わんぱくクエストでの経験を通して地域の人に声をかけることを自然にできていくようになります。

【野外泊】

民泊 or 公共施設

泊まる場所はその日に決める
〔努力目標〕 民泊 2 回



期間中、参加者は2泊するわけですが、例外を除いて野外泊です。大きく分けて、民家に泊まらせていただく「民泊」と公共施設の宿泊の2つに分けられます。野外泊ですから、「民泊」といっても、民家の部屋に泊まるわけではありません。民家の軒下や倉庫、ガレージなどの中をお借りするような形です。

参加者たちには、「3つの条件をクリア」できる建物に宿泊交渉をするように話をしています。3つの条件とは、

- ・屋根や軒などがあり、雨風をしのげて、外から見えづらい場所があること
 - ・屋外の水場を借りられること
 - ・トイレを借りられること
- の3点です。

この旅を通して、地域の方とたくさんふれあってもらいたいことから、2泊とも民家へ宿泊交渉をするよう推奨しています。

なお、先ほどの例外とは命にかかわる天候の悪化、野生動物の発生が予想される場合などです。

【野外泊】

寒さ・暑さ・虫との戦い

①地面にウレタンマットを敷く

②スリーピングシートに包まる

以上



野外泊では、テントを使用して寝ているわけではありません。

地面にウレタンマットを敷き、シートに包まる、以上です。

「枕が変わると寝られない」 そんなことは言ってられません。

1日中歩き回って、体が睡眠を欲するからです。

夜は早めに寝て、日の出とともに起きます。

わんぱくクエスト期間中は、否が応でも「早寝早起き朝ご飯」の生活をすることになると思います。

【自力生活】

- ・買い物（1日700円）
- ・炊事（1日1回はご飯を炊く）
- ・洗濯（手洗い）



期間中、参加者は限られた金額の中で生活してもらいます。
今年度は水分を購入するお金を含め、1日700円を支給しました。
カウンセラーを含めて8人いますから、班の1日の生活費は5600円です。
その限られた生活費をやりくりして、参加者たちは3日間を過ごします。
過去の参加者はカレー、そうめん、野菜炒め等、手早く簡単にできる料理をよく作っています。
こちらとしては、参加者の健康状態を気にしながら活動をさせたいので、
毎食、食事の内容を確認し、栄養バランスに心配な点があれば、
野菜など、積極的に摂取するよう指示します。

【自力生活】

- ・米をとぎ、鍋で炊く ・野菜の皮をむく ・食材を切る
- ・調理（煮る・焼く等） ・味付け ・食器洗い



自炊の特訓、超簡単レシピの伝授を！

子どもたちはこちらに書いてあるように、「米をとぐ・炊く」「野菜の皮をむく」「切る・煮る・焼く」「味をつける」「食器を洗う」など、料理の基本的なことしかやりませんが、毎年困る子が続出しているようです。

本番までに家庭で料理する経験を積ませるとともに、「簡単で」「手早く」「おいしい」レシピの伝授をしてもらえるよう、保護者にはお願いをしています。

【自力生活】

健康維持をしながらの食事！



- ・栄養バランス
- ・お通じ対策
- ・塩分・水分補給

常備薬（いつ？どんな時？どれくらい？）

健康を維持するためには食事が大切ですが、これも困る子が続出してるようです。

写真のようなご飯を作れるほうがめずらしいです。

食事に関しては、命に関わるため、カウンセラーも積極的に指導します。

ここに書いてあるように、①栄養バランス ②お通じ対策 ③水分・塩分補給 の観点を考えながら、その日の献立を考えられるようにしています。

また、常備薬があるお子さんには、基本的には自分自身で服用できるようにしてもらいます。

ただし、保護者の要請によってはカウンセラーや看護師がわかるようにメモを添えてもらうなど、服薬の際の声掛けについては行う場合もあります。

【自力生活】

洗濯について

・手洗い

・洗剤の量

・絞り方

・干し方

考えることは
たくさん



洗濯でも困る子が続出しているようです。

今の洗濯機はボタン一つで乾燥までできてしまうため、大人でもあまり手洗いの洗濯経験は多くないと思います。

こちらについても、本番までに靴下や下着といった簡単なものから手洗いの経験を積んでもらうよう、保護者にお話ししています。

ポイントは「脱水」で、よく脱水ができていないと、なかなか乾かなかったり、服から生乾きの臭いがしてしまう、ということがよくあるようです。

【スタッフ】

◎ 班対応カウンセラー

子どものそばで見守る存在！



そんな参加者の活動を支えているのが、多くのスタッフたちです。
スタッフにもいくつか役割があります。その1つが班対応カウンセラーです。
3日間、子どもと行動を共にするのがこの班対応カウンセラーです。
子どものそばで様子を見守り、参加者の安全や健康に気を配っています。

【スタッフ】

◎ 本部カウンセラー

24時間対応
定時連絡による状況把握
情報共有

24日	健康	朝良	昼良	夕食	予定
1班 7人 曾根	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり
2班 7人 平野	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり
3班 6人 大久保	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり
4班 7人 池永	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり
5班 7人 木田	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり
6班 7人 木田	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり	おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり おにぎり



続いて、本部カウンセラーです。

本事業の裏方に回り、班行動を支えるのが本部カウンセラーです。本部は袖ヶ浦市役所内にかまえ、24時間体制で常駐します。

子どもと直接関わる機会は少ないですが、子どもたちのことを第一に考え、きめ細やかな配慮、何かあったときは迅速な行動が求められます。

参加者の様子は定時連絡にて確認し、体調不良者等、班の異変を早期発見できる体制をカウンセラーと共につくります。

この班対応カウンセラーと本部カウンセラーは、市内に勤務している教職員の方を中心に依頼をしています。

【スタッフ】

◎ 本部カウンセラー 事務局スタッフ (現地パトロール)



**看護師による健康チェック
傷病者の輸送
危険箇所の確認
簡易な応急救護
スタッフの送迎**

本研修に取り組んでいる子どもたちと班対応カウンセラーを支えるのが、本部カウンセラー及び事務局スタッフの役割です。

主な活動内容としては、

看護師とともに参加者の健康チェック、傷病者の輸送

危険箇所の確認

アイシング対応

簡易な応急救護

スタッフの送迎です。

昼と夜の2回、現地パトロールを行っています。

【スタッフ】

◎ 事業支援ボランティア

- ・参加者の安全管理補助
- ・本部作業
- ・パトロール補助等



事業に欠かせない存在として、事業支援ボランティアがおります。これは過去にわんぱくクエストに参加されたOBOGによるボランティアスタッフです。

高校生以上の方を対象として、募集をかけ、今年度は6名の方にご協力を頂きました。

彼らには、主に班対応カウンセラーと一緒に子どもたちの見守りをお願いしました。

加えて、袖ヶ浦市にはユースボランティアという高校生以上の学生ボランティアがおり、その方たちにもお手伝いをいただくことができました。

ユースボランティアの方には主に本部での作業やパトロールの補助をしていただきました。

【本研修の様子：1日目】

出発式の様子



こうしたスタッフの支えもありながら、参加者の安全を第一に考えながら事業展開をしています。
ここからは簡単に今年度の様子を紹介します。

- ・出発式にて市長より激励の言葉をいただきました。
- ・式の後、自分たちで決めたスタート地へバスで移動します。

【本研修の様子：1日目】



- 1日目 1班 田中ファームという農家さんにて草とりの手伝いをさせていただきました。
2班 カメリアヒルズカントリークラブにてコース整備の手伝いをさせていただきました。

【本研修の様子：1日目】



1日目 3班 のうんカフェというレストランにてブルーベリーの摘み取りの手伝いをさせていただきました。
4班 工業用の浄水場を見学させていただきました。

【本研修の様子：1日目】



1日目 5班 東京ドイツ村にてイベント準備の手伝いをさせていただきました。
6班 民泊先で花火の差し入れをいただきました。

【本研修の様子：2日目】



2日目 1班 東京ドイツ村にてイベント準備の手伝いをさせていただきました。
2班 農村公園にてザリガニ釣りをしました。

【本研修の様子：2日目】



- 2日目 3班 製茶工場の見学をさせていただきました。
4班 雨宿り先で昼食&ジュースで乾杯をしている場面です。

【本研修の様子：2日目】



2日目 5班 郷土博物館にて洗濯板による手洗い体験をしました。
6班 農業センターにて収穫体験をさせていただきました。

【本研修の様子：3日目】



- 3日目 1班 ゴールまで長距離移動をしている場面です。
2班 トマト農家での作業の手伝いをしている場面です。

【本研修の様子：3日目】



3日目 3班 民泊先にてナスの収穫の手伝いをさせていただきました。
4班 率土神社という神社を見学しました。

【本研修の様子：3日目】



3日目 5班 最終日、やりくりして残った生活費で銭湯に行きました。
6班 最後の自炊として焼き肉パーティーをしました。

【本研修の様子：3日目】



ゴール・到着式の様子

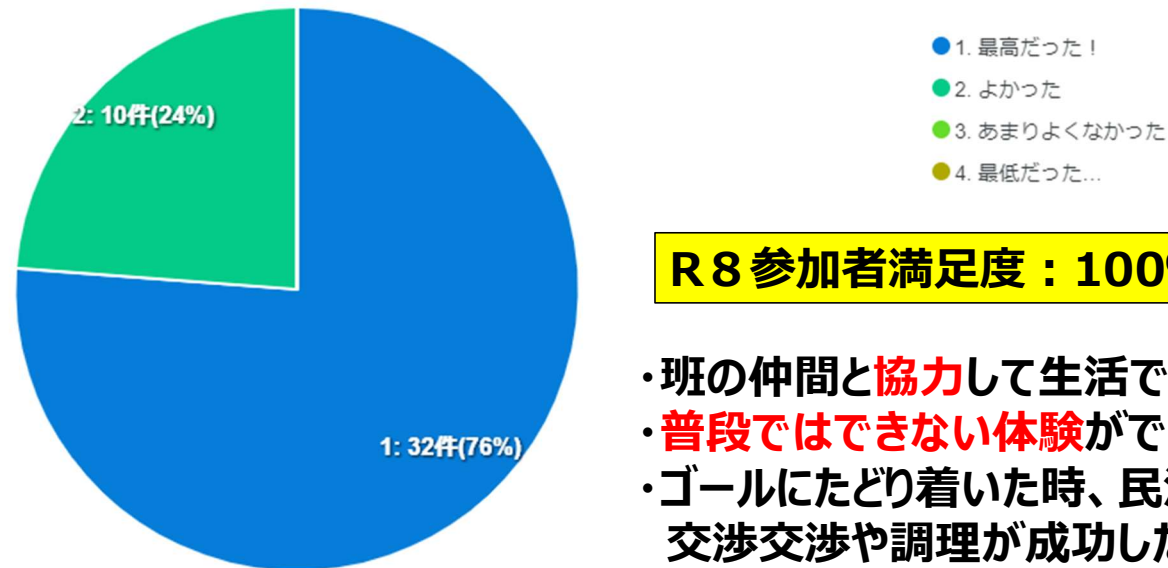


全ての班が市役所にあるゴールに無事たどりつきました。
ゴール後、到着式にて旅の報告を行いました。

【成果と課題】

アンケート回答数：42件
(回答率100%)

Q：ずばり、2泊3日の旅はどうでしたか？



R8 参加者満足度：100%

- ・班の仲間と**協力**して生活できた。
- ・**普段ではできない体験**ができた。
- ・ゴールにたどり着いた時、民泊交渉交渉や調理が成功した時の**達成感**がすごかった。

わんぱくクエストの成果についてです。

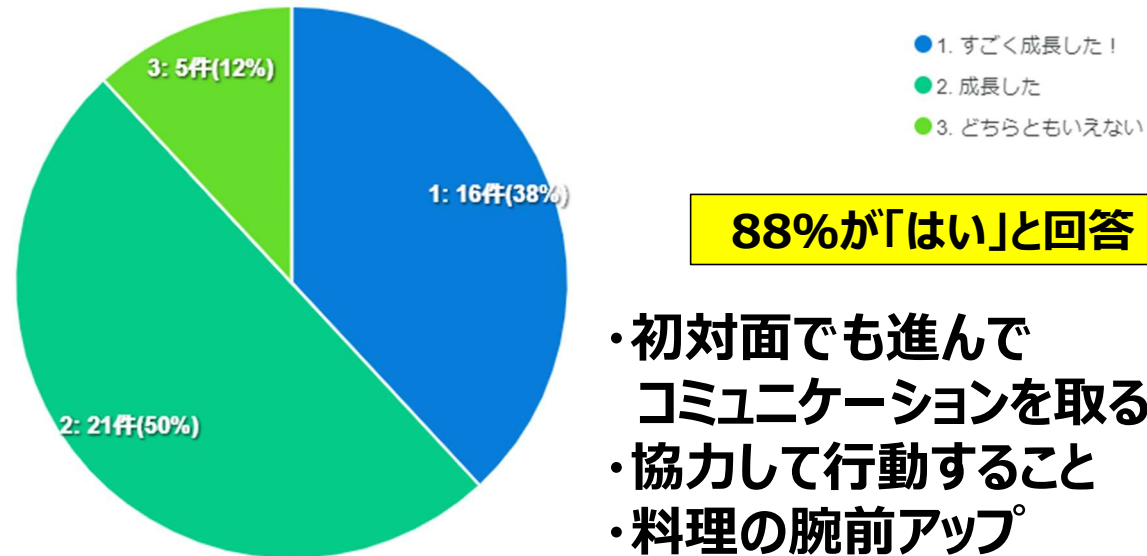
まず、参加者たちの満足度としては100%という結果でした。

参加者の声としては

班の仲間との協力 たくさん歩いたことや民泊交渉、調理が成功した時の達成感 など
3日間を振り返って、充実した旅になっていたがアンケートの結果からもわかりました。

【成果と課題】

Q：旅を通して、自分自身を成長させることができましたか？



88%が「はい」と回答

- ・初対面でも進んでコミュニケーションを取ること
- ・協力して行動すること
- ・料理の腕前アップ
- ・挑戦しようと思う気持ち

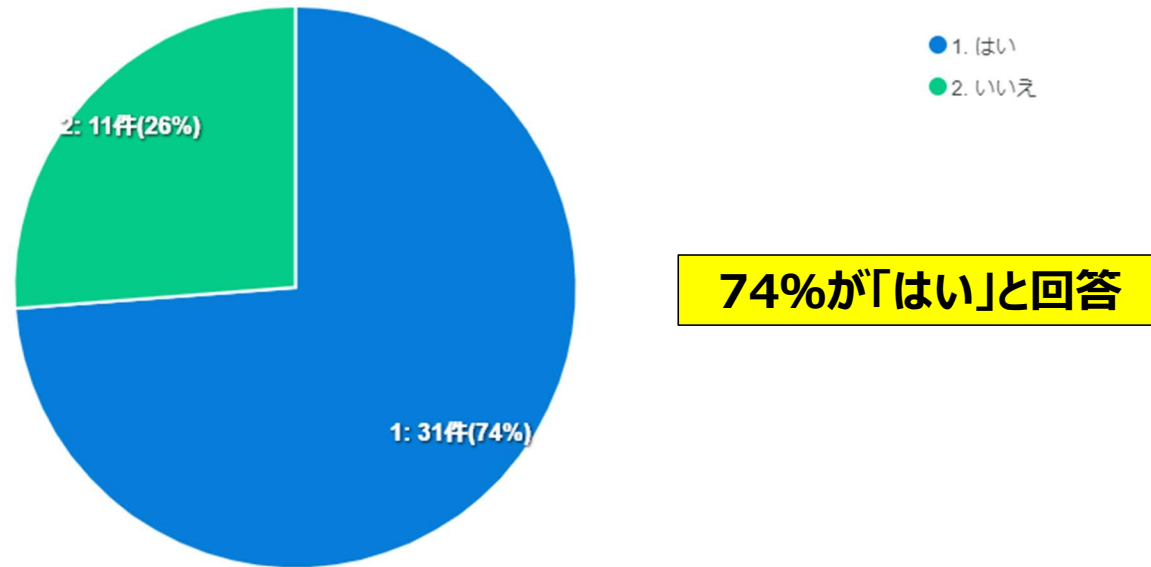
令和7年度からは「ジブン、全力アップデート」というキャッチコピーを掲げ、旅の中で自分自身を成長させてもらいたいという願いを込めて事業運営を進めてきました。

子どもたちはこの設問に対して、88%の参加者がはいと回答しました。

参加者自身が成長を感じた点として、・初対面でも進んでコミュニケーションを取ること、協力して行動すること 料理の腕前アップ、挑戦しようと思う気持ち といったことなどを挙げています。

【成果と課題】

Q：将来、ボランティアとして本事業に参加したいですか？



また、先ほど、スタッフとして紹介をした事業支援ボランティアとして、将来参加してみたいか、という設問には74%の参加者が「はい」と回答しました。

後述いたしますが、本事業の運営にあたり、本事業のOBOGの方にボランティアとして力をお借りすることは今後一層必要になっていきますし、ボランティアとなり得る人材を発掘していくことも重要な課題であると感じています。

【成果と課題】

子どもたちが得る、多くの「気づき」



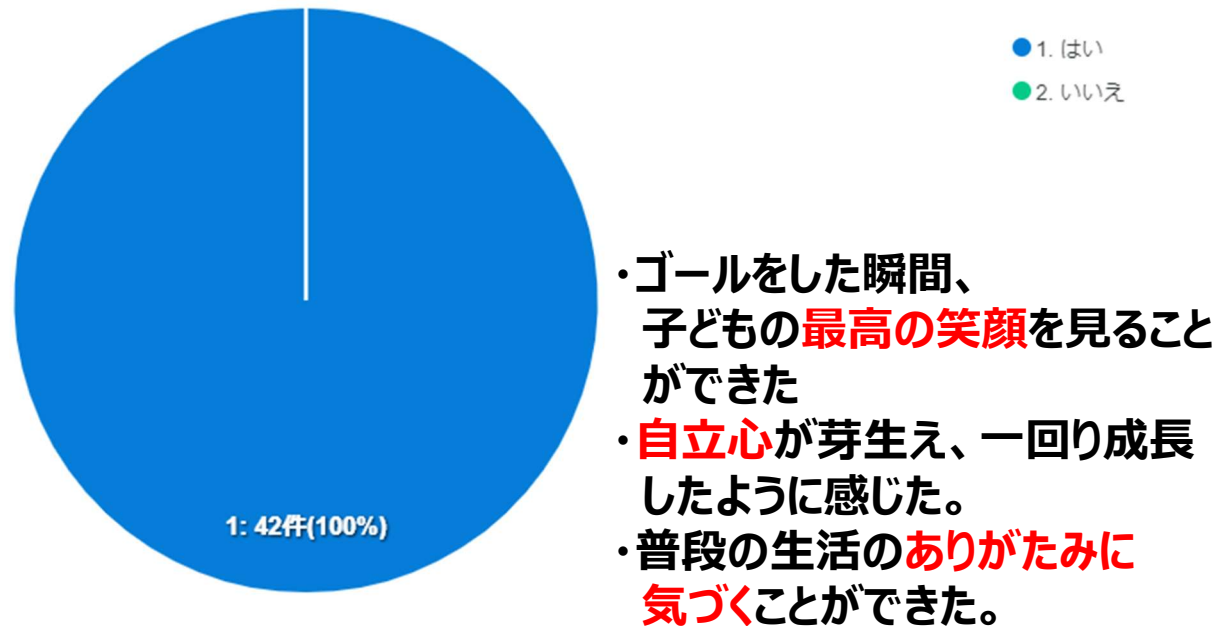
このわんぱくクエストの裏の目的として、地域の人と多く関わる機会をもつことで、「無償の奉仕」としてのあたたかさやありがたみに気づいてもらいたい、という点があります。学校教育の場でも宿泊学習は行われますが、そこでかかわる方はあくまで「仕事」としてかかわってくれる方であり、もちろんありがたさはありませんが、このわんぱくで感じることもできるあたたかさ・ありがたみとは少し違った性質かと思います。見ず知らずの自分たちを快く迎えてくれた地域の方の温かさに触れ、子どもたちも地域の方の優しさに気づいたようでした。

他にも、離れてみて初めて、かけがえのない家族と日常のありがたさがわかったり、喜びも苦しみもみんなに分ち合ったことで得られた、仲間との絆やチームワークを感じたりするなど、このわんぱくクエストを通して、子どもたちは自分自身を成長させた先にある「大切な何か」に気づいたのでは、とアンケート記述からも見取ることができました。

【成果と課題】

アンケート回答数：42件（100%）

Q：わんぱくクエストにお子様を参加させて良かったですか。



続いて、保護者の声です。

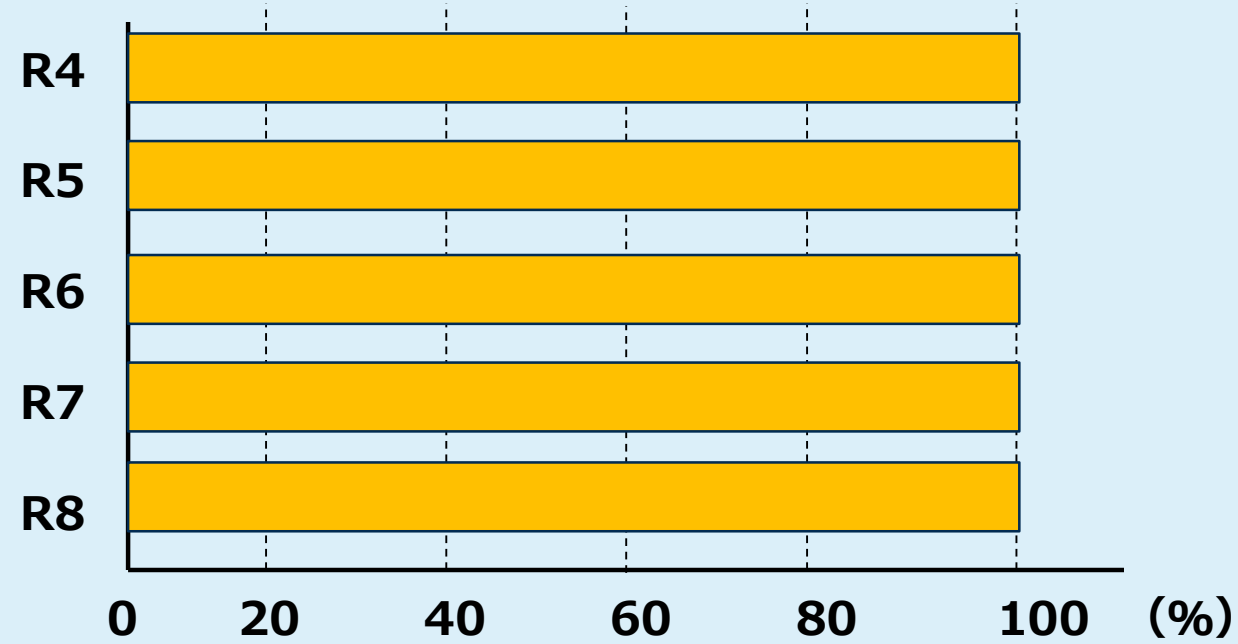
わんぱくクエストにお子様を参加させて良かったですか、という問いに対して、よかったという回答は100%でした。

理由としては、ゴールをした瞬間、子どもの最高の笑顔を見ることができた、自立心が芽生え、一回り成長したように感じた、普段の生活のありがたみに気づくことができた、など保護者の方から見ても、お子さんの成長を感じているようでした。

【成果と課題】

過去5回の保護者満足度

すべて100%



ちなみに過去5回の保護者満足度をたどってみると、全て100%という結果でした。
この事業による子どもたちの変容を保護者の皆様は感じているようです。

【成果と課題】

2泊3日の非日常体験

- ・予定プログラムはなし ・山ほどある「不便」「不快」
- ・「初めて」の体験目白押し



・人に優しくできる ・仲間と協力できる ・家族を大切にできる



いつの日か地域を担う人材に…

これまで説明してきたように、2泊3日の非日常体験は100%快適な旅ではないですし、むしろ、不便で不快なことの方が多いです。ですが、この極限状態を乗り越えた時に、得られるものや気づくものはきっと現代ではなかなか得ることのできないものです。こうした経験をした参加者がいつの日か未来を担う人材として活躍してくれることを願って、事業を行っています。

【成果と課題】

●安全面の向上を追求 … 「非日常」の希薄化

(例) ・LINEによる一斉連絡や位置情報の把握

・荒天時における緊急車両の追従

・山や川へのスタッフ増員

●どんなに手厚く安全に配慮しても 「傷病者なし」を完全に保証することが難しい。

〔懸念材料〕

・雷雨 ・台風 ・酷暑 ・毒虫 ・火傷 ・野生動物

・不審者 ・水難事故 ・滑落事故 ・交通事故

わんぱくクエストによって得られる成果がある一方で、課題もあります。長年挙げられている課題は大きく2つです。

1つ目は安全面の向上を追求すればするほど、「非日常」が希薄化してしまう点です。

例えば、LINEを使って本部と班対応カウンセラーが連絡を密にすればその分、スマートフォンを見る機会が増えてしまいます。

雷雨が発生しそうな時は、緊急車両が参加者たちを追従するようにしていますので、ハザードランプをつけた車がずっと追いかけてくるわけです。山などの活動の際には、スタッフを増員して参加者の安全を確保するようにしていますが、人が増えることによって、「班の8人の時間」を奪ってしまいます。

2つ目は、どんなに手厚く安全に配慮しても「傷病者なし」を完全に保証することが難しいということです。

事業の性質上、雷雨、台風、酷暑、毒虫、火傷、野生動物、不審者、水難事故、滑落事故、交通事故等が懸念材料としてつきまといまいます。

【成果と課題】

①昨今の異常な暑さ

- ・近年の気温上昇により、野外の活動が難しい時間帯あり。
- ・活動範囲の縮小、アイシング等の対策を講じているが…
- ・小中学校は水泳学習も中止している状況もあるが…

参加者・スタッフの安全の担保が難しい

②事業に関わるスタッフの確保

- ・カウンセラー…主に市内の教職員に依頼
- ・事業支援ボランティア…本事業のOB・OGに依頼
- ・看護師…これまで依頼した方に長年依頼

不確定要素の大きい人材確保

また、近年出てきた課題もあります。

1つが昨今の夏季の気温上昇です。この異常気象は命を脅かすレベルともいえます。

今年度もスタッフの24時間体制の安全管理により、参加者、スタッフともに全員が無事で本事業を終えることができましたが、今後の運営を考えた時に参加者及びスタッフの安全を担保することが難しくなってきました。

もう1つが事業に関わるスタッフの確保です。

事業を成立させるにあたり、カウンセラー、ボランティア、看護師と様々な人材を確保する必要がありますが、そのいずれも不確定要素が大きく、毎年安定的に人材を確保できるかがその年になってみないとわからないような状況があります。

第3 1回そでがうらわんぱくクエスト、無事終了！



様々な課題がありますが、次年度以降の本事業については、様々な方面から意見を聞き、すでに検討を進めているところです。今後も事業の目的を達成するためには何が望ましいか、また「参加者の子どもたち」、そして事業に関わる「スタッフ」にとって何が最善なのかを第一に事業展開を考えていきます。